

岐阜県北エリアにおける電源接続案件募集プロセス説明会の質疑応答について(2017年5月23日)

説明会において、受領したご意見・質問等と回答となります。
募集プロセスに関連したのもののみ掲載しております。

項番	意見・質問等	回答
1	説明会資料P57について、入札対象工事以外に増強工事がある場合、追加で工期がかかるということか。	【中部電力株式会社より回答】 同時進行となります。足し算ではありません。 【広域機関より回答】 工期は足し算ではありませんが、申込が多数となった場合、お示している対策内容以外の工事が発生し、作業が輻輳することにより工期が長期化する可能性があります。具体的な工期については接続検討の回答の段階で、お示しいたします。
2	説明会資料P57について、連系可能量に対して応募容量が大きく下回った場合であっても、工事費を応募容量で按分するのか。	工事費を応募容量で按分することとなります。
3	説明会資料P36について、同一地点の場合の話をしているが、水力の場合、上流に大きな発電所の取水設備があると減水区間となるため出力減の可能性があるが、どうすればよいか。	プロセス応募後の容量の変更は、他の応募者への影響等を考慮して、原則として認めておりません。 なお、最大受電電力を減少される場合については、プロセス完了後であれば、減少後の最大受電電力に応じた工事費負担金と最大受電電力の減少分に応じた工事費負担金補償金をお支払いただける場合は変更可能ですので、応募窓口にご相談ください。
4	現時点の所要工期について、入札対象工事完了予定時期は、プロセス完了時から約6年3ヶ月と記載されている。この工期は保証されていないということだが、工事完了予定時期に変更があった場合は、今後お示しいただけるのか。	【中部電力株式会社より回答】 現時点で工事完了時期はお約束できませんが、工期に変更がある場合は速やかにお知らせしたいと考えています。
5	地点統合の可否について、現在、水力発電所の計画を考えている。FIT法改正により、単価が変わることもあり、同じ流域で連系点を2か所にするか、1か所にするか決めかねているが、2か所分申込み、その後、2か所分の合計容量で1か所に統合することは可能か。	【中部電力株式会社より回答】 1地点1契約が原則であり、合計容量が同じであっても2地点を1地点に統合することはできません。 プロセスに事業が重複しない2つの申込をしておき、後に1つを取り下げることは可能です。しかし、2つの申込を後に1つにまとめることはできません。 【広域機関より回答】 応募申込み以降の内容変更はできませんので、不要な第1次保証金の没収を避けるためにも、早期に事業性等を検討していただき、応募等についてご検討いただきたい。なお、入札以降に優先系統連系希望者が辞退する場合、辞退者は第1次保証金が没収されますが、他の優先系統連系希望者は再度の再接続検討が生じさせ、プロセス遅延が生じますので、プロセス全体のためにも、可能な限り早期に事業性等を検討のうえ応募等いただけますようお願い致します。
6	募集容量8.6万kWを上回る応募があった場合はどのようにするのか。	原則として、「募集要綱に記載の増強工事」に加えて「全ての応募者が連系可能な増強工事」等を入札において提示します。また、入札の成立条件を満たした増強工事のうち、最も優先系統連系希望者の最大受電電力の合計が大きい増強工事を入札対象工事として、以降本プロセスを進めます。詳しくは説明会資料P32をご確認ください。
7	事業者が最低入札負担金単価を上回る単価で入札した場合でも連系ができない事例はあるのか。	入札負担金単価によって、優先連系事業者が決まるため、最低入札価格を上回る価格で入札した場合であっても連系ができない可能性はあります。そのため事業性の範囲内で最大の入札負担金単価での入札をお勧めします。詳しくは説明会資料P28のケース3をご確認ください。
8	説明会資料P57の①の工事について、応募容量が少ない場合、工事規模が縮小されることはあるのか。また、応募容量が少ない場合は、入札対象工事以外の増強工事を実施しない可能性はあるのか。	【中部電力株式会社より回答】 応募容量が少ない場合でも鉄塔建替が必要となることから、工事規模の縮小はございません。詳細については接続検討の回答時にお答えします。 申込容量が現状の空容量の範囲内であれば、工事は必要ありません。
9	説明会資料P57の②の場合、6MVAから10MVAに取替するにもかかわらず、なぜ取替後の空容量が7MWとなるのか。	【中部電力株式会社より回答】 6MVAから10MVAに取り替えることで単純に連系可能量が4MVA増えるということではなく、154/6kV変圧器を別に設置する設備形成を考えています。そのため、10MVAから最低負荷や想定されるPVを含んだ結果、対策後の空容量は7MWとなります。
10	説明会資料P57について、②の取替工事費と、広域が提示している標準的な工事費を比較すると高額ではないか。こちらに記載の費用は標準的な単価で検討しているのか。	【中部電力株式会社より回答】 ②の変圧器は、現在は11/6kVであり発電用とネットワーク用を兼ねているが、システム改革に伴い、発電用とネットワーク用の設備は明確に分ける方針。このため、工事後は154/6kVの変圧器を別に設置するため、高額となります。
11	説明会資料P53の所要工期について、工事完了後に連系可能となる認識でよいか。また、他電力の募集プロセスでは、工期が長いことによる暫定連系について説明していたが、中部電力は、本プロセスにおいて暫定連系等の対策は考えているのか。	【中部電力株式会社より回答】 ご認識のとおり、連系に必要な工事が完了次第、連系は可能となります。また、暫定連系対策については考えておりません。
12	説明会資料P59について、プロセス完了後に空容量がある場合、その空容量の扱いはどうなるのか。	募集要綱の3.5(P21)に記載の通り、設備の使用開始後3年以内に当該設備を使用する新規利用事業者が現れた場合は、新規利用事業者から容量按分で工事費負担金を申し受け、募集プロセスにて既に支払っている優先系統連系希望者に対して精算します。
13	説明会資料P57について、②、③の現状連系可能量は0MWである。低圧PVの連系に伴い、空容量が変わる可能性があるが、対策工事をどのように検討しているのか。また、応募容量が少ない場合、入札対象工事規模の縮小案はあるのか。	このエリアでは低圧の増加による増強工事は現時点で不要と考えています。また、本案が最小の工事規模となります。
14	説明会資料P30について、現時点では空容量は残っているのか。また、入札対象工事に連系可能量(空容量)が生じた場合、早期連系が可能か。	【中部電力株式会社より回答】 現状の空容量はありません。 【広域機関より回答】 契約申込みの取下げ等で入札対象工事の対象設備に空容量が生じた場合は系統連系順位に応じて早期連系が可能となる場合があります。詳しくは説明会資料P30をご確認ください。